日本で開催された耳科関連国際学会の報告

The First Asian Otology Meeting & The 3rd East Asian Symposium on Otology

喜多村　健

東京医科歯科大学大学院 耳鼻咽喉科学分野

開催年　2012 年 6 月 2 日～3 日（平成 24 年）
開催地　長崎市
主催校　東京医科歯科大学大学院　耳鼻咽喉科学分野
会長名　喜多村　健

2012 年 6 月 2 日（土）～3 日（日）に長崎にて，The First Asian Otology Meeting & The 3rd East Asian Symposium on Otology（第 1 回アジア耳科学会・第 3 回東アジア耳科シンポジム）を主催致しました（写真 1）．

東アジア耳科シンポジウムのルーツは，2008 年に韓国延世大学の Lee 教授が，韓国耳科学会開催時に，東アジアの耳科学研究者の集まりを持ちたいと，台湾，中国，日本の耳科学会に呼びかけた時点まで遡ります．第 1 回の参加者は，数名にとどまりましたが，2010 年に台湾，2012 年に日本で東アジア諸国が参加する東アジア耳科学会を開催することが決定されました．私は東アジアに限らず，いずれアジア諸国の耳科学の学会として発展するならば，日本での開催時に東アジアに限定せずにアジア耳科学会として，先鞭をつけた方が良いと考え，2009 年シンガポールで開催されたアジア太平洋人工内耳シンポジウムの際に，韓国，台湾，シンガポール，フィリピン，マレーシア，中国のそれぞれの耳科学会の代表者に集まって頂き，日本でのアジア耳科学会開催の趣旨を説明し，一同の承諾を得ることが出来ました．そして，準備を開始してから 3 年で，開催にこぎ着けることが

写真 1　学会ポスター

写真 2　ロビーにて，左から喜多村　健（会長），Chuan Jen Hsu 教授（Taiwan），Chong-Sun Kim 教授（Korea）

写真 3　司会を務める左の Charlotte Chiong 教授（The Philippines）と右の Wong Kein Low 教授（Republic of Singapore）

写真 4　ポスター会場

出来，学会参加者は 128 名，演題数は 94，参加国は日本，韓国，台湾，香港，シンガポール，フィリピン，ベトナム，マレーシア，中国，インドネシア，イランと 11 カ国となりました（写真 2，3，4）．学会では，Basic Science in Otology，Implantable Devices，Middle Ear Disorder，Idiopathic Sudden Sensorineural Deafness，Facial Nerve Disorder の 5 テーマをシンポジウムとしました．

本学会では，アジア各国が直面している耳科学の種々な問題点のいくつかは明らかになり，アジア各国の耳科学分野における交流を活性化し，耳科学の進歩・発展に寄与する事になりました．また，アジアの耳科学の発展の嚆矢となる第 1 回目の学会を日本において，成功裏に開催・運営したことは，いままで我が国が耳科学分野で果たしてきた学術的な成果を，アジア全体の視点の中で再確認することに繋がることになりました．